# RICD 表敬訪問報告

(Rajanagarindra Institute of Child Development)

訪問日 ： 2022 年 4 月 29 日

報告者 ： 木 村　　武 史

2021 年に当会のタイにおける第2のパートナーとなった RICD(Rajanagarindra Institute of Child Development)を 2022 年 4 月 29 日に表敬訪問しました。

RICD で車椅子プロジェクトの責任者である Mr. Joseph Tell と面会し、その後 RICD の施設を案内してもらいました。

上記写真左からアドバイザーの Mr. Johannes Heinrich Janzen、
グランドマネージャーの Mr. Joseph Tell（車椅子プロジェクトの責任者）、
娘さんのソフィーちゃん、筆者

〇RICD の目的について

RICD 車椅子プロジェクトは 1999 年に設立され、タイおよび東南アジア全体で障害のある人々に車椅子の提供を目的としており、各ユーザーのニーズや環境に合わせた車椅子の提供や、その他の移動補助器具を無料で配布をしています。RICD 車椅子プロジェクトは、タイ国内および世界中のパートナーと協力することでこれを実現しています。

現在まで、同車椅子プロジェクトは数万人の患者に車椅子を提供し、まだ必要としている数十万人の個人のニーズを満たすために、そのサービスを拡大し続けています。

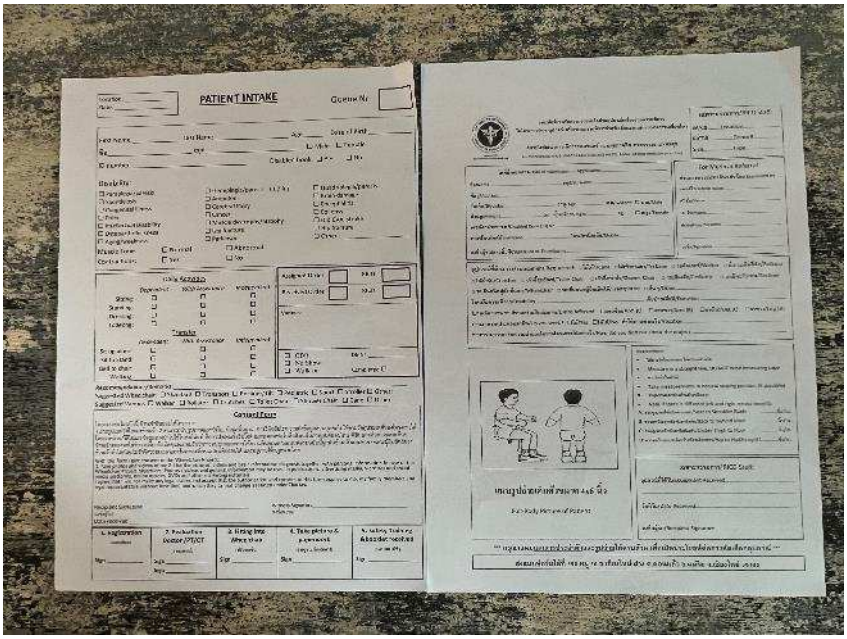
○パーツ管理や作業場の様子

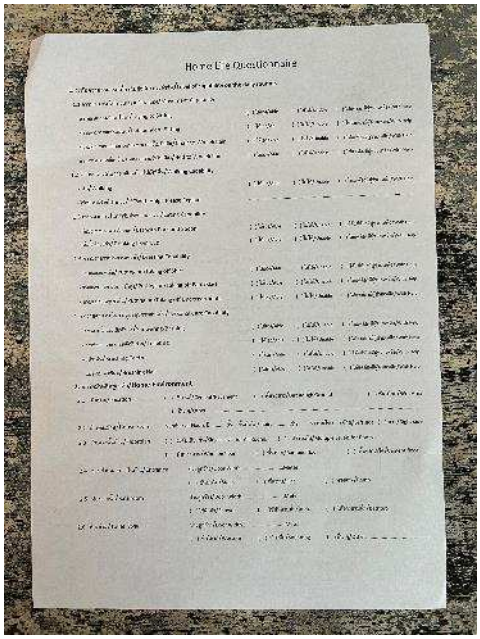
車椅子に取り付ける安全ベルトやカバーなどの在庫及び作業室です。

○車椅子ユーザーの管理

現在車椅子を必要としている人のカルテが保管されています。カルテには、医師の診断及びサイン、作業療法士のどのような車椅子が適しているかのアドバイス及びサインなど、多岐な項目によって、どの様な車椅子が適しているかなどの判断が記載されています。個々のユーザーにきめ細かく配慮していることがわかります。

車椅子を必要としている人のカルテ保管棚



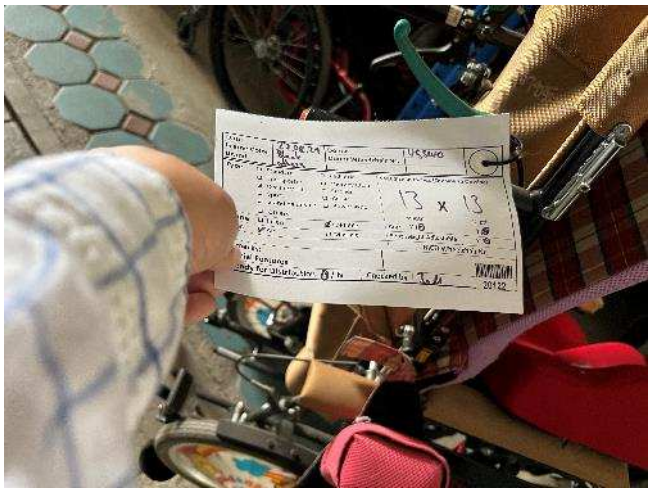




車椅子利用にあたっての事前調査用紙

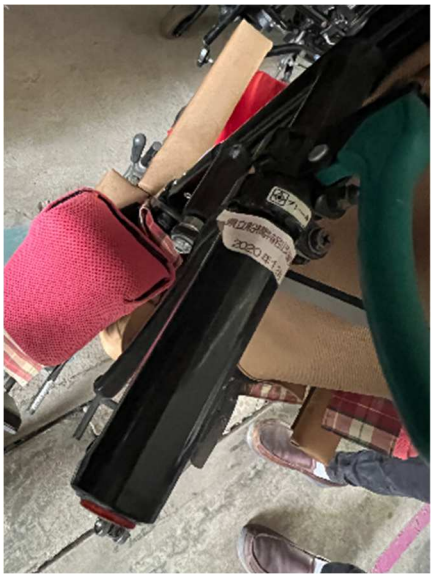
倉庫の外観

倉庫内の様子

日の丸が付いた当会のシールが見えます。



車椅子の管理タグです。管理項目が参考になります。



車椅子には当会が添付した各種シールが貼ってあります。県立船橋特別支援学校、松戸特別支援学校からの車椅子であることがわかります。

完成品とはならない車椅子からは、部品として使えるものを残して保管しています。

「この車椅子を売る事は違法です」とタイ語で全車椅子に書いているとのことです。

車椅子の清掃マシーン(ドイツ製)

大人用で最大 3 台、子供用なら 4 台くらいの車椅子を、70 度の蒸気で殺菌することが可能です。その後は、外で自然乾燥させます。中古の車椅子を殺菌して新たな使用者に渡すことができるのは、受け取る側にとっても大きな安心です。こうした本格的な機械を保有している福祉団体は素晴らしいです。

〇まとめ

この施設はタイ王室の援助で運営されているそうです。設立は、Johannes 氏（アドバイザー）と Joseph 氏（車椅子プロジェクトの責任者）のお父様の二人です。Johannes 氏はタイで生まれ、高校までタイで過ごしました。その後大学をドイツで卒業した後、タイに戻って来て、この施設の開設に力を注ぎました。

この施設の活動内容は、障がい者への支援として車椅子などの補助機器の提供に加えて、障がい者の教育、就労に向けたトレーニングなども行っています。

ボランテイアはアメリカ、フィリピン、スイス、ドイツ、など多くの国から来ています。Joseph 氏、Johannes 氏の二人は WHO のテクニカルライセンスも持っているとのことです。両氏を初めとして、このプロジェクトにかかわるメンバーが車椅子の専門的知識を豊富に持ち合わせていて、しっかりと整備し、そして各利用者にフィットした形で車椅子を提供しているのが良く理解できました。コロナ前にはドイツからの学生を教育の機会の一環として受け入れていたそうです。

RICD では、各国から車椅子の供給を受けていますが、やはり日本製の車椅子は、アジア人の体型に合っていて非常にニーズが高いとのことでした。

チェンマイの RICD で整備された車椅子が主にタイ国内各地へ配送され、一部は近隣諸国へも送られています。周辺国は、貧困に苦しむ国が少なくありません。そうした国々へも車椅子が届けられることは素晴らしいことと思います。

今回の訪問をして、RICD は高い整備技術を持っていて、組織運営能力も高く、車椅子の提供だけでなく教育や就労に向けてのトレーニングなど多岐に渡って障がい者を支援する素晴らしい施設だと認識しました。今後も当会の重要なパートナーとして関係を継続し、より強固にできたらと思います。

以上